（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和６年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州やまがたファン創出・移住・定住大作戦
事業主体 （連絡先）	山形村（企画振興課） 0263-98-5666
事業区分	（１）地域協働の推進に関する事業 （８）その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,790,240 円（うち支援金：　2,232,000 円）

事 業 内 容

人と人を結び付け、将来的な担い手を確保するための仕組みづくりが課題であり、現在実施中の施策をうまく活用しながら、①来て、知って・②ファンになって・③住んでもらうための仕組みの構築する。そのために、まずは山形村を知ってもらうための特産品（そば）の PR を実施。実際の生産者（加工者）との交流を通じて行政ではない、在住者・先輩移住者との結びつきを狙った。加えて、漠然とした移住希望から「検討」に移行できるよう、短期おためし住宅利用者に対して移住の後押しができるよう、村の主幹産業である農業体験を通じて山形村の魅力を感じてもらう。

また、移住サポーター養成の一環として、イベントに参加した講師が、自ら考え内容を提供する（行政がすべてお膳立てするのではない）意識改革を行い、未来の山形村のモデル作りも同時進行で実施する。

【銀座 NAGANO のイベント様子】

【目標・ねらい】

① 山形村を知ってもらう・魅力発信
② 移住希望者と村民がつながる
③ 移住サポーターの養成

事 業 効 果

銀座 NAGANO イベントを通して、山形村を知ってもらい、実際に 1 名はおためし住宅を利用することとなった。今年度のイベント参加者の移住は 0 件だったが、長野県内への移住の候補地の一つとして 2～3 年を目処に検討をしている方も出てきた。

体験事業を希望したおためし住宅利用者については、住民（事業者等含む）との交流による定期的な村への訪問の機会も造成されたようで、施設の今後の利用増加が見込まれている。実際、R7.4 月以降の施設予約はほぼ空きなしの状態で、過去におためし住宅を利用した知人からの紹介で予約が入ったパターンもあり、移住検討の一助となっている。

また、イベント参加した一部の移住サポーターについても、自分たちのグループ内でイベントの企画・運用をしており、行政がいなくても自走できる理想の先輩移住者モデルとなった。

※自己評価【　B　】

諸事情により事業規模の縮小はあったが、本当に移住を検討している層（おためし住宅利用者等）に寄り添ったイベントを構築することで、２回目、３回目の訪問の機会の増加につなげることができた。

また、移住サポーターの養成、意識改革により、移住者と住民が交流できるモデルケースの造成にもなったため、今後もサポーター・イベント協力者発掘の土壌整備を図りたい。

今後の取り組み

宅地造成による流入や、ベッドタウン化によりここ数年は人口減少に歯止めがかかっている状態であり、村の移住施策の内容の見直しが発生している。また、先に記載のとおり、移住サポーターの一部団体は、村内外問わず交流できる理想の先輩移住者となっているため、元気づくり支援金を活用した取り組みは、ここで終了とし、村の施策としては、引き続きおためし住宅利用者と、関係を密とした関係性の構築を図っていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある